

私は
アラブの王様たちと
どのように
付き合っているのか？

鷹鳥屋明

「石油王」
なんて
いません！

アラブ人SNSフォロワー約10万人！

「中東きっての有名日本人」が語り尽くす
等身大の中東世界！！

私はアラブの王様たちとどのように付き合っているのか？

鷹鳥屋明

星海社

181



SEIKAISHA
SHINSHO

はじめに

みなさん、はじめまして。

私、たかとりや あきら鷹鳥屋明と申します。

私は多くの読者のみなさんと同じように、

日本の企業で働くサラリーマンです。

そんな私ですが、

数奇な巡り合わせの連続で、

中東で一番有名なサラリーマンとして、



サウジアラビアやアラブ首長国連邦、

カタール、クウェートなどの

「アラブ世界」の様々な方とご縁を頂いてきました。

そのご縁によって私が経験してきた

エピソードの数々は、

日本に住む多くの方々にとって、

「非日常」的なシーンとして

映るかもしれません。



私が何者であるか、

もう少し詳しいことは

本章でお伝えさせていただきますので、

少々お付き合いください。

アラブ世界において、

私は「炊き込みご飯」という渾名あだなを拝命しました。

正式名称は、「シャムスーカマル・ビン・カブサ」。

日本語訳をすると



「炊き込みご飯の息子、太陽と月」という、

若干ネタに走っていることは否めない名前です。

私の大好物の中東の食べ物に、

「カブサ」というものがあります。

これは肉入りのスパイス炊き込みご飯なのですが、

私は中東を訪れる度にいつも食べているので、

いつの間にか現地の方から

その名をいただくことになりました。



おそらくアラブ諸国の路上で

「おい！ 炊き込みご飯！」と呼ばれる日本人は
そういないと思います。

ちなみに「太陽と月」の部分は

本名の「明」の部分が

「日」と「月」で構成されているので、

バラバラにしてアラビア語で

合わせてみたものです。



私、シャムスーカマルこと鷹島屋明は、こんな渾名を拝命するくらい特別な角度で中東世界にじっくりと関わってきた経験から、日本の方々より中東に関する多岐にわたる質問をいただきそれにお答えする機会がたくさんありました。

その中で、「石油王などいないから、どうか目を覚ましてください」と何度目になるかわからないセリフを、キラキラした中東に夢見がちな、とある女性に告げました。

はたまたとある方からは、「随分と危険なところに仕事へ行くものだね」と、これまた何度目になるかわからないセリフを、中東へ行ったことのない方から言われました。

今まで多くの日本の方と話した経験から、日本人が持つ中東へのステレオタイプはなかなか極端なものが多いと私は感じます。どうやら一般的な日本人が「中東」「アラブ」という単語を聞くと、そこで思い浮かぶ内容は「石油王」「砂漠」「ラクダ」、もしくは「危険」「テロリスト」などが多いようです。また、アラビアンナイトを中心とする映画やドラマ、ハーレクインのシーク物（いわゆる「アラブの王様、王子様」との恋愛物語）だけでなく、日本のアニメや漫画にもこのようなステレオタイプなイメージは色濃く出ています。そして多くのみなさんが「アラブ」と聞いて想起する風景は、「砂漠の中にそびえ立つ煌びやかな

高層ビル群」か、もしくは「月夜の砂漠を進むラクダの影」でしょうか。もちろん中東のイメージを構成する要素として、それらも間違いではないと思います。

ですが、例えば海外で自分が「日本人だ」と名乗ると「日本は侍と忍者がいる国だろう?」と言われれば「いつの時代の話をしているのだ」と思うのと同じように、中東の湾岸諸国のアラブ人たちは自分たちに「石油王」「お金持ち」のレッテル貼りをされていることに辟易へきえきしています。

とは言っても、最初に否定しておりましたが、「石油王」ではないですが、実際アラブの王族と結婚された日本人女性もいますし、中東では確かに危険な場所があり、私自身も生命の危険を感じた瞬間もありました。まさに色々な側面があると言えます。

本書は、なかなか情報の少ない中東世界について、そこで暮らす人々の様子を中東の国々や人々に、時に魅せられ、時に翻弄されてきた私の経験を通じて少しでも知って頂きたいと思い、筆を取りました。なるべく既存メディアが取り上げるような偏ったステレオタイプを取り除いて実態に即した内容をお伝えしようと努力しましたが、たまに現実味のない

話も出てくるので「何をもって実態に即していると言うのか」と思うかもしれません。しかしただのサラリーマンの身であっても中東という場所に深く携わると、なかなか日本で生活していると起こらないようなことが起きます。その話をおもしろおかしく、時にはシリアスに語りますのでなかなか知り得ない中東世界の（ちょっと偏った）入門書として、もしくは一部の分野においては中東のオタクに関する話や文化風習など、少々マニアックな部分も合わせて楽しんでいただければと思います。最初にお断りしておきますが、私は冒頭の写真にあるようにアラブの民族衣装をいつも着ている身ではございますが、宗教上はイスラム教徒ではございません。そして本書では宗教に関する部分はほぼ割愛させていただいておりますので、ご容赦ください。

合わせて、本書内で何度も出てくる語句について色々



中東諸国と周辺の地図

と言葉を選ぶのに苦労しましたが、混乱するかもしれないのでここで表現をまとめておければと思います。

「中東」という言葉では、東はイランやアフガニスタンまで、西はヨルダン、南はイエメン、北はトルコまでの中央アジアとヨーロッパ、アフリカまでの間にある地域を含めた表現となります。

「アラブ」という表現は民族としてのアラブを指す場合と、アラビア語話者が多く存在しているというイメージを持つていただければ良いと思います。

「湾岸アラブ諸国」という言葉は、主に産油国であるアラブ首長国連邦、オマーン、カタール、クウェート、サウジアラビア、バーレーンの6カ国を指すとお考えいただければ良いと思います（非産油国はそれ以外の中東の国をイメージしていただけるとわかりやすいです）。

それでは、なぜか中東世界に飛び込んだ日本人サラリーマン「炊き込みご飯」こと、鷹鳥屋のお話に、どうかお付き合ってください！

目次

はじめに 3

第1章

アラブの王族について

すべては1通のメールから始まった 22

「自称王子」の身元を調べよう 24

ついに王子とご対面 27

「マリリン・モンロー」に案内される 29

ポルシェ爆走、「やべ、道わかんね」 32

ラッパのナポレオン登場 35

突然、女性店員に告白する王子 36

王子、『UFOロボグレンダイザー』のフィギュアに大感動 39

サラリーマンと『中東トラブルバスター』の二足の草鞋 42

とにかく歴史が大好きだった少年時代 43

転機となったサウジアラビア派遣 45

有名になるきっかけとなった2人の人物 47

朝起きたらフォロワーが3000人以上増えている！ 49

有名になるのは運とSNSの波 51

頬を髭でジャリジャリ削りながら覚えた作法 52

そもそも「中東」とはなにか？ 55

流浪の名門部族によって統一されたサウジアラビア 57

中東戦争前後の中東のパワーバランス 60

「石油王」は存在しない？ 62

王族にも色々ありまして 66

第2章

アラブの財閥と共に

82

サウジの改革を進めているムハンマド・ビン・サルマン皇太子殿下
拡大が求められる若者が働く民間企業、中小企業 71

CORUM 御用心！ アラブの銀行から3億円振り込まれるって！ 中東詐欺案件の見極め方 74

いきなり舞い込んできた巨大会場でのプレゼン依頼 84

特別ルートを使って最短でサウジアラビアへ 85

リアーナの元カレと一緒に会場に向かう 88

1000人のサウジアラビア人を前にプレゼンで笑いを取りに行く！ 90

総会のくじ引きの1等景品は？ 94

実は車1台くらいもらえたのかも…… 96

そもそも「財閥」とはなにか 97

1兆円以上の個人資産を保有するアルワリード王子 100

砂漠の国の天下り 103

雇用問題から見えてくる「王族の存在意義」 105

アラブで存在感が低下しつつある日本企業 107

クウェートからやってきた食いしん坊ナイスガイ 110

「ポケモンは筋肉で集めるもの」 112

金網デスマッチで失神KO続出 116

深刻な肥満問題を抱え、改善しようとするアラブ諸国 118

CoCo壺番屋を目指して作られた「上野カフェ」 122

COLUMN 中東における日本製品の立ち位置 128

アラブにおける

日本文化

132

急成長を続けるアラブのエンターテインメント産業 134

サウジアラビアのエンターテインメント産業を支える「ミスク財団」 136

アラブで漫画よりもアニメのほうが人気な理由 137

アラブでアニメが受容された3つの世代 139

果たして中東から海賊版はなくなるのか？ 144

生産者側になることで海賊版問題に向き合うアラブ諸国 146

フランス経由でアラブに入ってきた『UFOロボグレンダイザー』 147

中東で人気になったジャンル、忌避されるジャンル 149

ダブルアンコールされるアニメソング（アニソン） 151

アニメ好きのカタール王族と『スレイヤーズ』を語り…… 153

リメイク版まで制作された『風雲！たけし城』 156

ドバイのeスポーツ大会で見た「資本力の競い合い」 157

アラブで大人気の日本風パン屋 159

きっかけは王族の奥様が始めた小さなパン屋 163

ターニングポイントになった「ガルフ・ジャパンフードフアンド」 166

アラブで勃発、「スフレチーズケーキ戦国時代」 170

勃発、「もちアイスクリーム」戦争 172

COLUMN 大使のアイドル化？ 外交はSNSを活用する時代 176

第4章

日本人から見た

アラブ文化

180

サッカーは国技です

182

強豪チームを作り上げた伝説的な選手たち

183

優勝賞金1億6000万円の「国王杯」

188

サッカー大会で勃発するアラブ諸国の代理戦争

189

男女が完全に分けられたパーティー会場

190

アラビックコーヒーを注ぐのは近侍きんじの役目

194

結婚式に1000万円以上使う人も……

195

アラブの部族社会と結婚

197

100回以上も結婚したサウジアラビア国王

202

パレスチナで人生初の銃弾と催涙ガス 202

支援物資の調達について考えさせられた日々 207

難民キャンプ学校の生徒の前で日本刀の演武を披露する 208

現地の富裕層の子女にアニメグッズを盗まれる 213

変化しつつあるイスラエルとアラブ諸国の関係性 215

非産油国から産油国を知る 216

中東諸国におけるアジア人の立ち位置 218

世界でも未だ残る王制国家の中で 220

中東初開催予定の「ドバイ万博」 223

中東湾岸諸国で推進されている太陽光発電などの新エネルギー 224

中東と女性と雇用 226

リスクを覚悟すればアラブは魅力にあふれている 229

第1章

アラブの王族に
ついで





すべては一通のメールから始まった

2018年の秋、私はモロッコのムハンマド5世国際空港の一室でパスポートを取り上げられていました。係員が用意してくれた不飽和水溶液という単語を想起させるほどの、信じられないくらい甘い甘いお茶であるモロッコ名物のミントティーを飲みながら、

「このまま私になにかあったら、これが人生最後のお茶だな」

と心のなかでつぶやき、時間が過ぎるのを現国王のムハンマド6世の肖像画を眺めながら待っていました。

いったいなぜ私はこんな状況に陥ってしまったのでしょうか。

* * *

「オレのボスであるサウジアラビアの王子が、あなたに会いたいと言っている。会ってくれないか？」

すべては、突然届いたこの怪しいメールから始まりました。こういった迷惑メールはよく届くのですが、メールアドレスが誰にでも作れるようなドメインではなかったので、興味本位から「ご連絡いただきありがとうございます。ところで……あなたはどちら様でしょうか？」と返信をすることに。

「オレはアメリカとサウジアラビアを拠点に活動しているラッパーのナポレオンだ。いまはサウジアラビア王族の下で仕事をしている。うちのボスである王子がモロッコの別荘であなたに会いたいそうだ」

という、これまた情報が多すぎてなんとも言えない返信が届きました。ナポレオンはフランスだろ、と思いながらラッパーが王子の部下？ そんなことあるのかなあ、と思いつつも、「ありがとうございます。そうですね、10月中旬から1週間程度なら空いています」と気楽に伝えたところ、なんと数日後に航空券が送られてきたのです。それも中東で有名なフラッグキャリアの航空会社のなかなか良い席。

「あー、これはさすがにマジなやつかも」

と対応の速さに正直驚きつつも、おそらく相手が王族をかたるニセモノではないなと思いを始めました。

「自称王子」の身元を調べよう

とはいえ、これだけの情報で自称王子の部下を信じるわけにもいかないのです、ナポレオンに王子の名前をファミリーネームまで聞き出して調べて本当に実在するのか事前にチェックすることに。具体的には後述しますが、サウジアラビアの王族は「どこまでを王族と呼ぶか」にもよりますが、一説には現在約2万〜3万人以上いると言われています。そのなかで連絡してきた王子がどの系譜の王族に該当するのかを調べてみた結果、実在する王族であることが判明。しかも、古くからの渋い名門に属している人物であることがわかったのです。知る人ぞ知る一門でした。仮に日本の徳川家を主家であるサウード家とした場合、本多家や井伊家のような譜代大名の家系であり、わざわざ日本人を騙そうとするには手が込みすぎていると思いました。日本での知名度が低く、現地では地位が高い王族の名前を出してくるということは信頼できるなと思ったわけです。

もしこれがサウジアラビアを治めるサウード家の王族からの連絡だとしたら、わざわざそんな大物がただの日本人サラリーマンに連絡をくれるだろうかと思っただけです。相手が大物なのであれば、過去の経験上、外務省や大使館などの公的なルート、もしくは現地にいる留学生などのネットワークを使って連絡してくるはずなので、突然メールが届いて

も本物か否か判断することができません。みなさんも王族や政府機関名を語る人から連絡が来たら、ドメインの確認とともによくよく注意する必要があります。最近でも日本企業や日本人が騙されている話を多くお見受けします。

さて、これで連絡してきた相手がサウジアラビア王族であることはなんとなくわかりましたが、会いに行くことにはためらいもありました。実は、当時のアラブ情勢はサウジアラビアが主導する「砂漠のダボス会議」と呼ばれているフューチャー・インベストメント・イニシアチブの直前で色々と事件が起きてゴタゴタしており、サウジアラビアに対する世間の風当たりが相当強くなっている頃でした。そんな状況だったこともあり、会いに行くか非常に迷ったのですが、王族から呼ばれる機会はなかなかないのでモロッコへ旅立つことを決断したのです。中東湾岸諸国は行き慣れています、モロッコには行ったことがなく少しリスクの高い決断をしたので、トラブルが起きることも覚悟していました。具体的な対策として、日本とモロッコの外務省の「たびレジ」こと海外安全情報配信サービスに自分の渡航予定を登録すると共に、外務省の友人に「もし、2日間わたしとまったく連絡が取れなくなったら、なにかあったと思ってください」と伝え、予防線を張ったうえでモ

ロッコに旅立ちました。

ありがたいことにいただいた良いシートで合計15時間以上のフライトを終えると、現地時間の朝にはモロッコのムハンマド5世国際空港に到着。タラップを下りると、そこには偉そうなスーツ姿のアラブ人が私の名前が書いてあるプラカードを掲げて待っていました。紙ではなくプラカードであることに、「これはなかなかVIP待遇だ」などと思いつつながらその偉そうな空港職員に連れられ、入国審査の長い蛇の列を横目に外交官、VIP対応の別室送りとなりました。そして無言でパスポートを持っていかれて、モロッコの国王であるムハンマド6世の肖像画が掲げられた窓のない部屋まで案内されたのです。

ここで話は冒頭のシーンに。

「ここでもなにかトラブルがあったら、これが人生最後のお



人生の最後を覚悟した甘いお茶

茶だな……」

と不安に駆られながら甘いお茶を飲み干したところで、

「お待たせしました。入国手続きがすべて完了しました」

と伝えられ、パスポートが戻ってきました。代行してくれるなら問答無用でパスポートを持っていくのではなくひとこと言って欲しいものだが、VIP待遇だとこれが当たり前なのだろうか、などと思いつつとりあえず生きて無事に空港をあとにしたのです。

ついに王子とご対面

一般客とは別の出口から空港を出ると、なんと運転手付きのマセラティがお出迎え。「すぐに王子のいるホテルまでご案内します」とモロッコ人の運転手の案内で、そこからは車で市内のホテルに向かうことに。あまり大きなホテルではなかったのですが、新しく綺麗な建物で王子お気に入りのホテルとのこと。王子が逗留^{とうりゅう}しているためか、ホテルの玄関にはサウジアラビアの国旗が掲げられていました。ホテルで朝食が出来るのを待っていると、階段から王子が下りてきて、ついにご対面です。ポロシヤツ姿の王子に対する第一印象は「品のあるイケメン」。気品のある顔立ちでした。サウジアラビア王家は初代から

7代まで特徴的な顔立ちのパターンがあるのですが、招待してくれた王子は家系的には異なりますが3代目のファイサル国王陛下に似たタイプの美丈^{びじょうぶ}夫でした。ちなみに現在のムハンマド皇太子は初代のアブドゥルアジーズ・イブン・サウード国王陛下（以下、アブドゥルアジーズ国王）に似ていることがよく話題になります。たしかにこれは王子として納得の顔立ちだな、と。そのまま王子と話しながら食事を一緒にしました。

王子曰く、

「私は留学をしていままでもいろんな国を訪問してきたが、そのなかでも日本は特に楽しく素晴らしい国だった。それに、あなたが我々の伝統的な衣装を着てアラブ圏で日本文化を紹介して、さらに日本でアラブの文化を紹介していることを知って、ぜひ語り合いたいと思っただ」

と、私を招待してくれた経緯を話してくれました。王子は、私が現地メディアに出演していた様子や、インスタグラムなどのSNSでの活動をずっと見ていたそうです。また、モロッコに招待する前からずっと私のアカウントをフォローしてくれていたようです。

その後、王子に「狭いところで申し訳ない」と言われ、巨大な天蓋付きベッドと大きな

テラス付きの豪華な客室に通されました。王子からは、

「お前はアラブ文化が好きだからこの部屋がいいだろう！」

と「イブン・バットウータ」という、イスラーム世界では有名な旅行家の名を冠したおしやれなタイル張りの装飾が素敵な部屋に案内されたのです。正直、「このスケールで狭いというかね……」と、当時8畳に住んでいた身として色々と考えさせられました。

「マリリン・モンロー」に案内される

ところが、部屋を紹介されたあとに王子が、

「お前をイブン・バットウータのほうに通したが、やはりお前は客人だから狭いところに置いておくわけにはいかない」

と言い出して、最上階にある「マリリン・モンロー」というスイートルームに改めて案内されました。「どんなネーミングセンスだ……」と思いつつ部屋に入ると、間取りは廊下付きの大きな部屋で、そして何よりも、部屋のあらゆるところにマリリン・モンローの写真が配置されており、どこに座っていてもお風呂に入っただけでも、それこそ寝ていてもマリリン・モンローと目が合うという異様な内装になっていたのです。寝室にはこれまた4

5人は寝られそうな巨大な丸型ベッドが設置してありましたが、あまりにも広すぎるため真ん中にドカンと寝ることには慣れず、私は端っこでちょこんと横になっていました。とはいえ、部屋のあらゆる場所に配置されたマリリン・モンローの写真を除けば、内装は洗練されたデザイン。おそらくアメリカかヨーロッパのデザイナーが作ったものなのでしょう。モロッコは地理的にスペインに近くフランスの影響も多いため、西欧の文化の片鱗を多く感じます。ただ、このマリリン・モンローの写真の多さについてはどうか、と思ったのですが……。

その後、王子のお誘いでお付きの人たちも一緒にモロッコのカサブランカ市内にある美術館に行き、展示品の美術品や銀製品、武具を鑑賞。個人的には展示品の中にチヨウチンアンコウの銀細工があり、「あの形状の生き物を銀製品



マリリン・モンローと必ず目が合うスイートルーム

で表現するのはセンスがいいな……」と感動しながら王子と「このアンコウは鍋にすると美味しいぞ」と話すと、王子以下みんなが「お前はマジで言ってるのか……」となんとも言えない顔で驚く。様々な展示品を王子と一緒に見ながら、「このミニアチュール（細密画）はどの年代のものだろうね」などといいながらアラブの美術品を堪能。王子との移動には、常にお付きの人が2人帯同していたのですが、この2人は王子の幼馴染みだそうで、ある意味上司と部下の関係ながらもキャツキャ言い合いながら楽しそうにしていたのが印象に残っています。王子は気に入った展示品を見つけるやいなや近づいていって撮影し、「おお！ これは素晴らしい……!!」と、ひとり悦に入っていて「この人は本当にアートが好きなんだな」と思いました。王子はそのテンションで展示品のサーベルの横で、「このサーベルもいいだろう!？」と自分が所有している刀剣コレクションを楽しそうに写真で見せてくれたりもしました。

そうこうしているうちに、

「よし！ お前は民族衣装が好きだからみんなで買いにいこうぜ！」

と王子の発案でカサブランカの街中の伝統衣装のお店に行くことに。色々と試着をしていると「よし、気に入ったやつを買ってやる。俺が全部見繕ってやるから任せろ！」と言

って、私は王子とお揃いの民族衣装一式を買ってもらいました。生まれて初めてのモロッコの礼装に、「わーいー」とみんなテンションMAXで街中を歩き回り、ひとしきり遊び倒しました。あとでわかったのですが、結婚式などで新郎が着る服だったのですよね、これ。

ポルシェ爆走、「やべ、道わかんね」

ホテルに戻り休憩していると、王子が部屋に来て、

「車を手配したから、いまからドライブだ!」

とか言って、急遽先ほど買ったモロッコの伝統衣装を着て、ドライブに出ることに。現地の高級車専門のレンタカー屋からポルシェを借りてきて、全員それぞれポルシェとマセラティに分乗してテンションぶち上げで街に繰り出しました。ポルシェがウォーン!! という音を立ててホテルを出発。しばらく街中を爆速で走らせていると、

「よし、このままナポレオンを空港まで迎えに行こう!」

と、後から合流予定だった今回の旅で私へ最初のメールを送ってくれたナポレオンの到着時刻に合わせて空港に向かうことになりました。ただ、このドライブがなかなか大変なことに……。

このとき、王子お付きの2人とモロッコ人運転手はマセラティに乗り、私と王子はポルシェに乗って目的地に向かいました。最初は2台並んで走行していたのですが、ずっと並走することもできず途中でマセラティを見失いました。しばらくすると王子が、

「やべ、道わかんね」

と。若干、慌てつつもすかさず私が、

「王子！ 車に付属のナビがありますよ！」

と液晶モニターを触ってみると、なぜか現在地の画面は灰色の背景の中に赤い矢印がひとつだけ。というか言語も英語でもないしナビとして機能していそうにない。

「王子！ これモロッコの道が全部灰色になっています！全然表示されません！」

みたいな感じで、現在地から地図を拡大していくと、

「王子！ このナビ、スペインの道だけめっちゃくちゃ細か



ポルシェで王子とドライブ

く表示しています！」

それもそのはず、実はそのポルシエはモロッコ対岸のスペインから運ばれてきたものでナビがスペイン仕様になっていたのです。2人で大爆笑しながら、自分たちの携帯で現在地を確認しようとなんとか打開策を王子に提案するも、日本の携帯電話でモロッコの回線に繋げるローミングの価格が固定価格ではなく、仮に繋がたとしても途方もない金額になるので、王子に検索してもらうことに。

私 「王子、俺の携帯は無理！　なんとかして！」

王子 「よし！　俺の携帯でやるぜ！　まかせろ！」

と王子がサウジアラビアから持ってきた携帯でマップを開いてみたところ、現地回線が弱く、

王子 「だめだ！　俺たちのいるところさえも表示されない！」

とあえなく失敗。お付きの人に電話をかけて現在地を確認しても道がよくわからず、結局、モロッコの伝統衣装に身を包んだサウジ人と日本人が「すいません、空港はどちら？」と行く先々の人たちに聞いてなんとか現在地を把握しました。現地の方は、おそらく何事かとびっくりしたことでしょう。なんとかあつちこち走った結果、ようやくお付きの人たちのマセラティと合流して空港にたどり着いたのです。

ラッパールのナポレオン登場

さて、やつとのことで到着した空港で、VIPゲートから出てきたラッパールのナポレオンとついに対面。「おお、やつと会えたな！ 兄弟！」と初対面の人物を「兄弟」と呼び、明るい笑顔で握手を求めてきたナポレオンはめっちゃ貫禄のあるナイスガイ。「オレが2Pacのアウトロウズ元メンバーのナポレオンだ！」と自己紹介の際に言っていたのですが、私は「そうか！ なにバックか6バックかわからんけどよろしく！」とか言いながら固く



2Pacのアウトロウズの元メンバー・ナポレオン (Mutah Napoleon Beale)

握手を交わしました。ただ、このナポレオン、日々アニソンばかり聴いている私は知らなかったのですが、ヒップホップに詳しい人なら誰でも知っている2Pacという超有名ラッパーの「アウトロウズ」というクルー（ヒップホップにおけるユニットの名称。チームのよな意味）の元メンバーで、実は物凄い有名人だったのです。彼自身はキューバ系アメリカ人で若い頃は刑務所でもやんちゃしていた……といいますが、かめちやくちやワルだったようですが、いまはムスリムに改宗してサウジで起業家をしているそうです。SNS上ではナポレオンだけでなくムスリム名を名乗っており、SNSなどを活用して「オレはムスリムになることでワルだった自分を悔い改めて、こういうふうに変わった！ 君も変わる！」みたいな感じで、映画も作られたとか。合わせて王子が所有しているレストランやカフェの経営もやっているとのこと。実際に会ってみると温厚でフレンドリーなのですが、口癖で「サア！ サア！」とリズムを刻みながら話しているので、ラッパーの方々は呼吸と共に常にリズムを刻んで生きていてすごいな、と思いつつ夜通し会話を楽しんでいました。

突然、女性店員に告白する王子

翌日、モロツコモールというアフリカ最大級のショッピングモールに王子とナポレオン

とお付きの人たちとお買い物に出向きました。王子がスポーツ好きなので、ナイキショップに行くことに。「とりあえずお前ら、靴買うぞ!」と訳もわからずいきなり全員分の靴を買ってもらったのですが、会計のときになって王子の様子がおかしくなったのです。どうやら女性店員さんを気にしている模様。

私 「王子どうしたんですか?」

王子 「いや彼女マジで美人だわ」

私 「たしかに美人ですね」

王子 「よし! 俺ちょっといまから告白してくるわ!!」

私 「はあ!? えっ、いま行くんですか!?!」

王子 「いま行くんだ!」

みたいな超展開が勃発。ナイキショップの柱のかげに、ナポレオン、お付きの2人と私の4人でそっと顔を覗かせながら王子の告白を見守っていました。テンション高めに女性店員に話しかけ、



突如、女性店員に告白しはじめる王子

会計を済ませて大量の買い物袋を両手にぶら下げて
こっちに向かってくる王子の第一声が、

王子「うん、彼女にはフィアンセがいるらしい」

王子、あえなく撃沈。最初は、目の前の美人に
ンションが上がっちゃってノリで告白したのだと思
っていたのですが、王子はけっこう落ち込んでいま
した。かなり気合いが入った告白だったのでしょ
う。あとで、王子が告白しているところの写真を「王
子撮っておいたよ!」と見せたら「えー、傷つくから
マジで勘弁して!!」みたいに鬱陶しがっていたので、
かなりダメージを受けていたはずです。

落ち込んでいる王子の肩を抱えて、みんなで、

「王子! 飲もう! とにかく飲みましようよ!」



王子、ナポレオンと皆で反省会

と言って向かったのがモールにあるテラス付きコーヒーショップ。地味に秋風も強く少し肌寒いテラス席でしたが、沸き立った感情を冷ますかの如く男5人組はテラス席でカプチーノやカフェオレを飲んで反省会です。

王子「なにが悪かったんだろぅなあ」

「ハチのマークが入ったグッチの帽子がセンス悪すぎだと思う」

「やはり女の子と目を合わせるときにサングラスはダメですよ」

とみなさん意外と言いたい放題で、私も、

「そもそも、なんで自分が王子だって名乗らなかったのですか？」

と聞いてみたところ、王子曰く、

王子「いや、それをネタにして女の子にアプローチするのはフェアじゃないと思う！」

この発言に私も突然会った人に告白するアクティブさはさて置き、「彼はいい王子だなあ」と素直に思いました。

王子、『UFOロボグレンダイザー』のフィギュアに大感動

ひと通り遊んだ後、ホテルに戻ったタイミングで王子が大好きな永井豪先生の『UFO

ロボ グレンダイザー』というアニメ作品のフィギュアを私からプレゼントしました。これはそもそもサウジアラビアで行われるイベントに向けて特別に私がデザインしたもので、これには王子もめっちゃ喜んでくれました。

王子 「これマジでいいものだよ！ いやー、最高のデザインだ!!」

という感じでお付きの人たちにドヤアと自慢していたので、本当に嬉しかったのでしょう。日本からわざわざ運んだ甲斐もある、と思えるくらい素直に喜んでもらえました。

そんなこんなで毎日王子たちと別荘や郊外で遊び倒し、気づけば最終日。最終日も「ギリギリまで遊ぶぞ!」という王子の勢いに乗って、フライト直前まで遊び倒しました。あまりにギリギリだったので正規の荷物の預け入れができなかったのですが、王子が「行ける、大丈夫! いざとなれば俺が日本に送るから」と言ってくれて、空港職員に荷物を運



『UFO ロボ グレンダイザー』のフィギュアに王子、ご満悦
©Go Nagai/Dynamic Planning

ばせるという荒技をしてくれた結果、なんとか無事に荷物と共に帰国できました。とんでもなく予想外の愉快な旅でした。

その後も、この王子は私がサウジアラビアで仕事をしているときに自身の邸宅に招いてくれて、王子以下友人たちと一緒に遊んだときに、

王子「ほら、歴史好きのお前にプレゼントだ！ サウジ独立戦争で使われた逸品だぞ！」と、唐突に1918年製造のワルシャワ公国製のライフルをプレゼントしてくれました。

私「いや……これは空港に持っていけませんよ」

王子「なにを言っている！ 俺は大丈夫だったぞ！」

すると、お付きの人がボソツと王子に、

「いえ、王子は王族専用ターミナルを使っているからでございまして……」

王族専用ターミナルがあるのは知っていましたが、実際にいろいろなものが持ち込める事実に驚きつつも、通常のターミナルしか使えない私はこのライフルを持っていけるわけもなく、「博物館か記念館かなんかに置いてください！」



プレゼントのお返しに貰ったライフル

と言つて私は笑いながら（苦笑しながら）王子にライフフルを返したのです。

サラリーマンと“中東トラブルバスター”の二足の草鞋^{わらじ}

さて、前段が長くなりました。あらためまして、みなさまはじめまして！ 私、鷹鳥屋^{たかとりや}明と申します。普段は日本の企業でサラリーマンをしており、版權やIP（知的財産）関係の事業戦略を担当し、日本のコンテンツを海外に展開するお手伝いをしたり、グッズを作つて中東などに売つたり……といった仕事をしています。合わせていろいろな企業や政府からの中東に関するお悩み相談や駆け込み寺的な案件処理もやっていて、中東にまつわる“トラブルバスター”的なこともしています。取り扱っているジャンルとしてはエンターテインメント系が多いのですが、他にも調査や観光、日用品や食品、医薬品や化粧品、時にはテクノロジーについてなど、中東現地をよくよく観察していたこと、様々な中東のイベントの展示会をずっとフォローし続けていた経験から、幅広いカテゴリーに対応しています。

具体的な相談内容としては中東に商品やイベントを持つていくときに、現地の風習に適した表現なのか、現地の法律はどうなっているのか、実践的な現地の商慣習はどうなつて

いるのか、さらには中東の詐欺案件の看破、など多岐にわたっています。私自身の知識と能力でカバーできないところは、私以外の信用できる方を紹介することになっています。「自分でできないのか？」と思う方もいらっしゃるかもしれませんが、中東において専門家やエージェントを紹介するというのは専門的な知識がなければできないことなのです。クライアントが必要としている知識を持っている人物を紹介することも立派な仕事であると言っていると思っています。

さて、そもそですが、中東に興味を持っている人というのはあまり多くはありません。おそらくみなさんの周りに「アラブのこと、めっちゃくちゃ興味あるんだよね」みたいなノリの人はそんなに多くはないと思いますが、いかがでしょう？

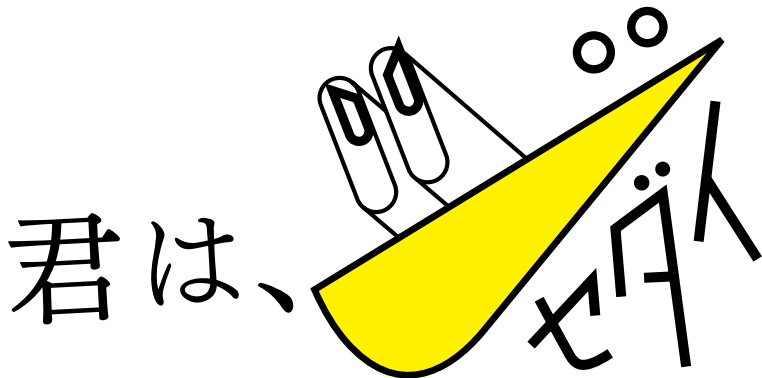
では、なぜ私はこの中東地域、そしてアラブに興味を持つようになったのでしょうか。

とにかく歴史が大好きだった少年時代

私は子供の頃から歴史の勉強が大好きでした。小学生の頃は出身地である大分市の市民図書館の歴史コーナーに置いてあった漫画『世界の歴史』『日本の歴史』を全巻読破してい

たほど歴史にのめり込んでいました。その図書館では一度に5冊までしか借りられないので、母親のカードを借りて一度にまとめて10冊借りて持ち帰り、ひたすら読み込んだことを覚えていきます。中学生になると、そういった経緯もあって歴史が得意になり、成績も良かったので、歴史好きはさらに加速していききました。そして大分舞鶴高校の図書館にあった横山光輝先生の『三国志』全60巻を10回以上読んでいたこともあって中国史に興味を持ち、合わせて図書館にあった陳舜臣ちんしゅんしんの『アヘン戦争や清末の歴史小説を読み、筑波大学に進学して東洋史を学びました。たまたま私がいたコースは中国とトルコについても勉強できたので、そこでオスマン帝国について研究している先生の授業も受けて、さらに中国とトルコのあいだに位置するアラビア半島の歴史についても学ぶようになりました。

その後、進路を考えるなかで本当は大学教授や歴史の先生になっていろいろな人たちに歴史を教えたいという想いがあったのですが、大学で繰り広げられる熾烈なアカデミックポスト争奪戦真っ只中の大学院生の研究生生活を見ると、私はここに進むのは無理かもしれない、と思うようになりました。結局、色々考えて社会に出て就職することを決め、最終的に日立製作所に入社しました。



何と闘うか？
<https://ji-sedai.jp>

「ジセダイ」は、20代以下の若者に向けた、
行動機会提案サイトです。読む→考える→行
動する。このサイクルを、困難な時代にあっ
ても前向きに自分の人生を切り開いていこう
とする次世代の人間に向けて提供し続けます。

メインコンテンツ

ジセダイイベント

著者に会える、同世代と話せるイベントを毎月
開催中！ 行動機会提案サイトの真骨頂です！

ジセダイ総研

若手専門家による、事実に基いた、論点の明確な読み物を。
「議論の始点」を供給するシンクタンク設立！

星海社新書試し読み

既刊・新刊を含む、
すべての星海社新書が試し読み可能！

マーカー部分をクリックして、「ジセダイ」をチェック!!!

行動せよ!!!